イタリアのワイン在庫、10月31日時点で7.2%増の4,770万ヘクトリットル

収穫量の発表を前に供給過剰の継続が示され、ワイン在庫の61.2%を北部地域が占めた

2026年11月16日（月）



電子セラー登録簿に基づく最新の「Cantina　Italia」速報によると、イタリアのワイナリーが10月31日時点で保管していたワインは4,770万ヘクトリットルで、2025年10月31日と比べて7.2%増加した。

ICQRFが公表したこの報告書は、23,665件のセラー記録に基づいている。保管中の果汁は1,580万ヘクトリットルで前年同期比10.6%増、発酵中の新酒は1,370万ヘクトリットルで4%減だった。

この数字は、イタリアの市場が以前よりゆっくりと生産量を吸収するなか、ワイン在庫が依然として高水準にあることを示している。在庫は数カ月にわたって増加しており、10月31日時点のデータからは、業界が2026年のブドウ収穫に関する公式統計を待つ間も、大量のワインがセラーに保管さ

れていることがうかがえる。

収穫量の統計はまだ公表されていなかった。WineNewsによると、公式データの発表は、11月30日が期限の収穫申告後、あるいは法定期限が12月15日の生産申告後になる可能性がある。それまでの間、セラー登録簿のデータは、すでに市場に供給されているワインの状況を把握するうえで、最も明確な情報の一つとなる。

保管中のワインの大半はイタリア北部にあった。同地域はワイン在庫全体の61.2%を占め、なかでもヴェネト州への集中が際立った。これは、特に大規模な商業的原産地呼称の分野で、北部がイタリアのワイン生産に占める比重の大きさを反映している。

在庫の大部分を原産地呼称保護ワインが占めることも、データから明らかになった。PDOワインは在庫全体の56.9%、PGIワインは25.6%を占めた。品種表示ワインの割合は1.6%と大幅に小さく、残る16%はその他のワインカテゴリーだった。

全体の在庫は、比較的少数の原産地呼称に集中していた。速報によると、イタリアのPDO・PGI呼称523件のうち、わずか20件で在庫全体の59.6%を占めた。この偏りは、国内有数の規模を持つ商業的なワインカテゴリーの一部で、供給圧力が特に強いことを示唆している。

単一の呼称として保管量が最も多かったのはProsecco DOCで、490万ヘクトリットル、ワイン在庫全体の12.5%に相当した。2026年も市場成長を示している数少ない主要なイタリアワインカテゴリーの一つだが、在庫量も他を大きく上回っている。

Prosecco DOCに続いたのは、Puglia IGT、Toscana IGT、Delle Venezie DOCだった。これらの呼称はいずれも保管量が140万ヘクトリットルを超え、国全体の在庫の3.7%を占めた。

10月31日付の速報だけで年間の最終生産量が分かるわけではないが、シーズンの重要な時点におけるセラー内の供給状況を詳細に示している。収穫量の公式統計が未発表のなか、在庫データは、需要や販売のペース、増加する在庫を消化する業界の能力をめぐるイタリアワイン業界内の議論をさらに活発化させる可能性がある。